

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価							福山市立		野々浜小		学校				
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	【確かな学力】基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	見直し	国語科・算数科における基礎学力の定着と「わかる」「できる」を実感する子ども主体の授業づくりの推進【主】【思】	・学習活動や思考の過程で価値づけを行いながらやる気を引き出す授業づくり ・みんなと考えたら「わかった」「できた」という達成感を味わえる授業づくり ⇒自己肯定感や主体的な学びへのつながり	①授業で「友達と考えると楽しい・わかるようになる」と回答した児童の割合を80%以上にする。【児童アンケート】 ②国語科・算数科の単元テスト60点未満の児童を10%未満にする。	①授業で「友達と考えると楽しい・わかるようになる」と回答した児童の割合は83%である。 ②単元テスト60点未満の児童は国語科13%、算数科15%である。 ◎単元テストにおいて国語・算数ともに目標達成できなかった。基礎学力の定着に重点を置く必要がある。友達と考える良さを実感しているため、協働的な学びの場を意図的に設定することで学力向上につなげる。	3	4	①自分が選んだ学び方や学びも振り返る等、自己決定の場の設定と振り返りを行う。 ②朝学習で計画的に漢字や計算に取り組ませる。毎週、研修の時間を設定し、算数科の活用問題の作成等の教材研究を行う。	①授業で「友達と考えると楽しい・わかるようになる」と回答した児童の割合は87%である。 ②単元テスト60点未満の児童は国語科8.3%、算数科16.6%である。 ◎職員研修において、朝学習の問題作りや活用問題の作成を行い、基礎学力の定着と活用力の育成に努めた。	3	3	3	①ドリルタイムの活用により、基礎学力を定着させ、学びの基盤を構築する。 ②文脈から言葉の意味を創造する場面や、問題文から問題場面やお多恵を創造する場を設定することで、イメージ力を育む。 校内研修で、活用問題の作成を行い日々の学習を活用する場を意図的に設定する。
7	【豊かな心】達成感・自己有用感の享受と自尊感情の醸成	★	見直し	児童相互の立場の自覚を促し、お互いを尊重し合い、自尊感情の高い児童を育成する。【主】【共】	・学級力リーダーチャートを用いて学期に2回のスマイルタイム等で学級状況の振り返りをし、改善を行う。 ・異学年との関わりの中で、相互に評価し合う場を充実させる。	③「自分は目標をやりとげようと取り組んだ」と回答した児童の割合を85%以上にする。【学級力アンケート】 ④「自分の考えは認められている」と回答した児童の割合を80%以上にする。【児童アンケート】	③「自分は目標をやりとげようと取り組んだ」と回答した児童の割合は87%である。 ④「自分の考えは認められている」と回答した児童の割合は77%である。 ◎各学級の実態に応じた振り返りを行うことで、行事や生活の振り返りの場を充実させることができた。	3	3	③スマイルタイムで決めた取り組みについて、できているところをほめて価値づけるなど、継続的に意識できるようにする。 ④相手の立場を考えるなどのスキルが低いことが一因と考える。ソーシャルスキルトレーニングを学活で取り上げる。	③「自分は目標をやりとげようと取り組んだ」と回答した児童の割合は88%である。 ④「自分の考えは認められている」と回答した児童の割合は77%である。 ◎各学級の実態に応じ、工夫して振り返りを行うことで、行事や生活の振り返りの場を充実させることができた。	3	3	4	③なわとび大会などの行事ごとに、学年の実態に応じた目標設定を行い、工夫した振り返りの場を設ける。 ④「静かに聞く」「相手の方を見て聞く」「反応しながら聞く」などの聞き方を価値づける声掛けを行い、「安心して話ができる」「みんなが聞いてくれる」環境づくりを行う。
8	【健やかな体】主体的に運動に親しむ態度の育成		見直し	運動の楽しさ・喜びを味わい、自己の体力を見つめ、高めていこうとする児童を育成する。【主】【課】	・運動の特性を味わわせる楽しい体育科の授業を展開する。 ・運動の必要性に気づかせる指導を工夫する。 ・児童一人一人が自己の特性や課題に応じた目標を設定して取り組み、体力向上の実感を感じさせる。	⑤体力づくりの様々な取り組みに参加し「運動の楽しさや喜びを感じる」ことができた」と回答した児童の割合を80%以上にする。【児童アンケート】	⑤「運動の楽しさや喜びを感じる」ことができた」と回答した児童の割合は88%である。 ◎体育の授業でのセット運動・朝の会のグーパー運動・柔軟の実施がほぼ定着している。がんばりカードを通した取組については個人差が大きく、個々の課題や成果が見えにくいため、通信や懇談等で保護者への呼びかけも必要である。	3	4	⑤グーパー運動は継続するが、やり方の工夫をする。（回数、曲に合わせてなど） その他、握力向上の取り組みとして、そうきんしぼり、いらない紙を片手で小さく丸める運動などを取り入れる。	⑤「運動の楽しさや喜びを感じる」ことができた」と回答した児童の割合は89.8%である。 ◎握力強化のために、各学級が工夫して取り組んだ。日によって実施回数やスピードを変え、意識して指導することができた。懇談を活用して、家庭でも取り組めるように声掛けを行っている。	4	4	4	⑤握力強化は継続して朝の会や体育の授業で行い、工夫しながら楽しく活動していく。さらに、前屈・片足バランスもセットで行い、体幹や柔軟性アップを目指す。 体育館にボール投げの的当てカードを貼り、的を狙って当たるように指導していく。

8	【活気ある教職員】 教職員の元気・やりがいの醸成		継続	やりがいを実感しながら業務を進めることのできる職場づくりを進める。（職員の自己肯定感） 【主】【課】	・各種計画を早めに提示し、勤務時間を意識しながら見通しを持った業務遂行ができる体制づくりをする。 ・職員個々の目標達成に向けて日常的に交流し合い、協働して取り組む職員集団づくりを進める。 （時間の確保・プロセス評価・助言等）	⑥時間外勤務時間が月45時間未満となる職員の割合を100%にする。 ⑦100NENアンケートや職員アンケートで「やりがいを感じる」職員の割合は100%以上にする。	⑥時間外勤務時間が月45時間未満となる職員の割合を95%である。 ⑦100NENアンケートや職員アンケートで「やりがいを感じる」職員の割合は100%である。 ◎日課表を修正し、児童の生活時間を改善した。行事や授業の変更点や詳細の説明については、事前にメール配信で保護者に周知している。	3	3	⑥各種アンケートについては、内容を考慮しながらできるものはタブレットへ移行する。 ⑦職員間で交流した改善策の中で、自分に生かせるものを考え、実行する。各種提案を計画的に行い、職員が見通しをもって業務を遂行できるようにする。	□⑥時間外勤務時間が月45時間未満となる職員の割合は100%である。 ⑦職員アンケート「やりがいを感じる」職員の割合は100%である。 ◎各種提案を計画的に行い、職員が見通しをもって業務を遂行することにより、平均退校時刻を早めることができています。	4	4	4	⑥来年度以降、勤務時間外の業務を減らすために、教育課程と年間行事の見直しを進めていく。 ⑦各種提案を計画的に進めるために、職員同士のコミュニケーションを深めること、各自が職責をもつことを意識し、組織として確実に業務が遂行できるようにする。
7	【信頼される学校づくり】 保護者・地域から信頼される学校の創造	★	継続	学校・家庭・地域が学校の課題や取組・成果を共有・協働して児童を育てる。 【共】	・各種便りの発行やHPの更新を計画的に行い、学校の取り組みを保護者や地域に周知する。 ・学校の取組や児童会の取組等に家庭・地域の協力を要請し、課題解決を図る。	⑧「信頼される学校づくり」に関する項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。【保護者アンケート】	⑧「信頼される学校づくり」に関する項目について肯定的な回答の割合は92%である。 ◎計画的に通信を発行し、児童の学習や生活の様子を発信している。行事や授業の変更点や詳細の説明等については、事前にメール配信で保護者に通知している。	4	4	⑧学力テストの結果や研修の取組、授業への還元方法等を保護者に知らせていく。 引き続き、保護者との連携を丁寧に行い、学校教育の理解が得られるようにする。	□⑧「信頼される学校づくり」に関する項目について肯定的な回答の割合は91%である。 ◎計画的に通信を発行し、児童の学習や生活の様子を発信した。道徳を紹介する通信を発行し、学校全体で取り組んでいる。	4	4	4	⑧引き続き、通信の発行やHPを更新し、学力テストの結果や研修の取組、授業への還元方法等を保護者に知らせることで、学校教育の理解が得られるようにする。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。